

# 出前講座報告書

Vol.8

## テーマ

日 時: 2017年2月14日  
開催場所: 福島市保健福祉センター

## 「健康情報を使う力、伝える力：ヘルスリテラシー」



ヘルスリテラシーは、健康に関する情報を住民が入手して、理解し、使おうとする知識と技術だけでなく、保健医療従事者側が伝えるスキルまでをも含みます。今回の研修では、ニューメラシーという数値を分かりやすく伝える概念についても紹介しました。

## 講義とグループワークの様子

ヘルスリテラシーとニューメラシーに関する内容を1回に詰め込みましたが、大変多くの方々にご参加いただき、皆さん疲れを見せずに演習に取り組んでいました。

前半は、リテラシーの概念と重要性、情報をわかりやすく伝えるツールの紹介についてでした。後半は、課題の資料を評価して、学んだツールを使ってより分かりやすくするにはどうすればいいか話し合いました。この演習をもっとしたかったという声が多くありました。

## 講師紹介



福島県立医科大学  
総合科学教育研究センター  
後藤 あや

平成7年山形大学医学部卒業。平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了後、米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座を経て、現在、同大学総合科学教育研究センター勤務。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

## アンケート集計結果

参加者は49名、アンケート回収は45名でした。

評価項目	(そう)思う※
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	98%
時間配分は適切だった	87%
進行は適切だった	96%
研修の内容について	
講義内容について理解できた	96%
基礎的知識	89%
技術	89%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	96%
話し合いは今後の活動に役立つと思う	95%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	89%

※ 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計



## 復習ポイント

- ・ヘルスリテラシーの意義は？
- ・わかりやすさを評価するツールは？
- ・分かりやすく伝えるポイントは？



## 明日からやってみよう！

主な意見は大きく分けて、ヘルスリテラシーの意識が高まったことに関してと、具体的にツールの活用についてでした。是非、仲間と共有しながら、分かりやすく情報を伝える工夫を続けてください。

「伝えたい事が伝わるような工夫を大切にしていきたいと思いました。」  
「来年度の事業ポスターを作成中なのでメッセージ、言い換え、レイアウトを考えて作ろうと思います。また、他の職員と共有してよりよいポスターを作ろうと思います。」



## Organized by FMU



性差医療センター  
災害医療総合学習センター  
医療人育成・支援センター  
総合科学教育研究センター  
公衆衛生学講座

## 編集後記

情報の伝え方を教える研修をしていて、その研修自体が分かりにくいとどうしようもないですが、皆様にそれなりに評価していただくことができ、安心しました。村上先生の講評のポイントは、経験則による分かりやすさの工夫から、ツールを活用したより体系的な工夫への変革、そして、個人の取り組みから、組織全体としての取り組みへの展開でした。これからも皆さんでツールを使い続けてください。

(後藤)

本ニュースレターのデザインはご当地シリーズです。

出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。